

第19回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会

当事者に学ぶ社会福祉実践

明治学院大学社会学部付属研究所主催

第19回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会を下記の通り、開催いたします。本テーマに関心をお持ちの社会福祉実践に携わる皆様、奮ってご参加くださいますよう、ご案内いたします。今回は、基調講演のみの参加も可能です（各項の『基調講演オープン参加』の欄をご参照ください）。

1) 開催日時 2005年10月29日（土）

- ①基調講演 10:00～11:30
- ②ワークショップ 13:00～16:20
- ③全体総括 16:30～17:00

2) 会場 明治学院大学 白金キャンパス

3) 対象と定員

対象は、原則として現在、社会福祉の諸領域にて実践活動を行っている方です。各ワークショップの定員は30名、研修会定員は計90名です（先着順）。

『基調講演オープン参加』は、関心のある方なら、どなたでも参加できます。研修会定員とは別に、定員50名で、先着順にて受け付けます。

4) 参加費

研修会（基調講演とワークショップ）参加の場合 3,000円
申し込み受付後、振り込み用紙を送付しますので、事前にお振り込みください。
参加費振り込み後の返金には応じられませんのでご了承ください。

『基調講演オープン参加』は、参加費1,000円です。
当日受付にて、お支払いください。

5) 申込方法 申込受付開始：2005年9月15日より

参加希望のワークショップをひとつ選び、申込用紙の所定事項を記入の上、ファクス・Eメールにて当所へお送りください。折り返し、振り込み用紙をお送りします。参加費入金確認後、受講票をお送りします。定員になり次第締め切ります。

振り込みの控えが領収証となります。改めての領収証発行はできませんので、ご了承ください。

『基調講演オープン参加』TEL・ファクス・Eメールにて、当所へ直接お申し込みください。その際、「基調講演オープン参加」の旨お申し出ください。

6) 研修プログラム

…基調講演…

当事者に学ぶ社会福祉実践

講師：静岡県立大学 教授 石川 准

社会福祉実践では、近年「当事者主体」「当事者参加」の重要性が強調されてきています。理念の上では、こういった考えは当たり前のようになっていますが、一方で、現実の支援では、必ずしも福祉サービス利用者が、当事者として、支援の中で主体となり、その過程に参画できている状況にはありません。児童、障害、高齢福祉領域で、さまざまな当事者とともに、活動するソーシャルワーカーにとって、彼らとどのような関係を築いていくことが、当事者主体や参加の実現につながるようになるのでしょうか。また、これまでの実践と比べ、どのように、異なる視点を持つことが必要になるのでしょうか。

今回の研修会では、「当事者に学ぶ社会福祉実践」をテーマに、理念を超えて、当事者主体、参加を実現するために、ソーシャルワーカーはどのような実践をすべきかについて、講演、ワークショップを通じて考えていきたいと思います。

◆ワークショップA

ステップファミリーとは？ - 当事者に学ぶ再婚家族支援のあり方 -

講師：ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン運営委員

岩田珠巳、桑田道子

コーディネーター：明治学院大学 茨木 尚子

ステップファミリーとは、夫婦のいずれか、もしくは双方が前のパートナーとの子どもを連れて再婚したときに誕生する家族のことです。すでにある程度成長したパートナーの子どもに、途中からどのように関わっていったらよいのか、元配偶者と子どもとの面会は、

どのように考えていけばいいのか、血のつながらないきょうだい同士をどう育てていくべきかなど、異なる歴史を持つ親子とパートナーが、一つの家族になっていくプロセスは、初婚家族とは異なる難しさや課題を含んでいます。ステップファミリーは、日本では離婚率の高まりとともに、その数が増えてきているといわれていますが、その実態はまだ明らかではありません。また、家族支援を行っている専門家も、ステップファミリーに関する知識や支援のあり方について、十分な共通理解があるとは言えないのが現状です。ワークショップでは、ステップファミリー当事者を中心に運営しているサポート団体ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン（SAJ）のスタッフから、日本のステップファミリーの状況や、必要な支援のあり方について、ロールプレイなどを用いた具体的な事例を中心に学んでいきます。

◆ワークショップB

当事者から学ぶ自立生活支援

講師：自立生活センター・立川 泉口 、 、

コーディネーター：明治学院大学 中野 敏子

障害のある人が地域で自分の暮らしを確立していくための支援はまだまだです。支援費制度が実施され、ホームヘルプサービスやガイドヘルプサービスを活用して、個別に支援を組み立てていけるのではないかと期待しました。しかし、また、障害者自立支援法という新しい体制がだされ、実際、暮らしの支援の先がみえにくくなっています。

障害のある人は、自立生活支援として何を必要としているのでしょうか。いまこそ、確認していくときと考えて企画しました。知的障害当事者をワークショップの講師に迎え、ガイドヘルプサービス利用をめぐるロールプレイを通して、支援を振り返ってみます。これまでも、大学で、学生たちに大きな示唆を与えてくださったみなさんから、ぜひ、あらたな発見をしてみてください。

◆ワークショップC

当事者活動(セルフヘルプグループ)を地域でどう支援していくか

講師：とちぎセルフヘルプ情報支援センター代表 高橋 忠

コーディネーター：明治学院大学 平野 幸子

現在、当事者活動は「福祉・保健・医療」のサービス利用者ばかりでなく、さまざまな生活課題を持つ本人によっても数多く展開されています。本人同士がセルフヘルプグループをつくり、自律的に活動を展開することは、「同じ課題をもつ者が仲間として出会う」「体験から得た知識や情報を互いに伝えあう」「サービスの受け手だった人が援助の役割をとることで社会的な有用性を感じる」などの意義があるといわれています。セルフヘルプグループの存在は、ソーシャルワーカーが利用者に提供したい重要な社会資源です。一方、場面によってソーシャルワーカーは、セルフヘルプグループ活動の応援者でもあります。セルフヘルプグループ活動が、地域で自律的に展開されるよう、ソーシャルワーカーはどんな支援や連携をしたらよいのでしょうか。自身がアルコール依存症からのサバイバーで、現在、多様なセルフヘルプグループの活動支援に活躍する講師から、ワークを通して、セルフヘルプグループを理解し、地域で支援・連携することについて学びたいと思います。

■主催・詳細及び申込先：

明治学院大学社会学部付属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

TEL 03-5421-5204・5205 FAX 03-5421-5205

Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp

<明治学院大学 白金キャンパスへの交通>

東京メトロ南北線および都営地下鉄三田線「白金台駅」「白金高輪駅」より徒歩約7分
都営地下鉄浅草線「高輪台駅」より徒歩約7分

J R・京浜急行「品川駅」高輪口下車、都バス「目黒駅」行で「明治学院前」下車

J R・東急「目黒駅」東口（ロータリー側）下車、都バス「大井競馬場」行で「明治学院前」下車



2005年度 第19回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会 申込書

氏名（フリガナ）

明治学院大学卒業生の場合

（西暦） 年 卒業

所属先

社会福祉実践家としての
経験年数

所属先における職名

年

資格（おもちの資格に○をつけるか、おもちの資格名を、その他（ ）にご記入ください）

社会福祉士 精神保健福祉士 介護支援専門員 介護福祉士 保育士 その他（ ）

所属先住所 〒

TEL

FAX

Eメール

自宅住所 〒

TEL

FAX

Eメール

参加希望のワークショップ A B C （必ず○を付けてください）